

2006 年度三重大学人文学部における

F D 活 動

報 告 書

2007 年（平成 19 年）3 月

三重大学人文学部

I. 2006年度FD活動の総括

人文学部のFD活動は四年目を迎えた。今年度のFD委員会の活動総括は以下の通りである。

本年度FD活動の基本方針は過去三年間の積み重ねの下に、一定の意義が確認できたFD活動を継続しながら、不足と思われる活動内容を追加的に実施するというものであった。具体的な活動形式としては前年度の学生による授業評価を材料として各教員が授業改善に取り組むための意見交換、外部講師による実践例の紹介、新たに導入されたPBL形式授業の実践に関する意見交換、卒業論文、オリエンテーションセミナーなどの具体的指導方法にかかわる意見交換などが中心であり、これまでのFD活動の積み重ねの上に各教員が蓄積してきたノウハウの積極的な共有である。また大学における教育活動の上で重要な今日の問題であるハラスメントに関する教員の意識啓発も外部講師による講演をおこなった。

また当初計画立案に際して念頭に置いたのは、「持続可能な Faculty Development」というコンセプトである。「持続可能な開発」すなわち sustainable development というのは環境問題を考える上で一般化した概念であるが、経済開発の与える自然環境への負荷は、開発が継続的に実施できる範囲にとどめなくてはならないというものである。

学部における教育活動もまた研究活動やその他の学部運営活動と密接に関連しており、それら教員の活動の総体は有限の時間と有限のリソースの範囲内でおこなわれるものである。教員個人、あるいは複数の教員集団が、教育活動の改善にさくことのできる努力に向上の余地はあってもそれが他の有用かつ不可欠な活動に対して過剰な犠牲を強いるのであれば、継続的に実施することは困難である。

FD活動は常に継続されるべきものであり、常に向上を意識して行われるべきものである。したがって「持続可能性」を考慮することはいずれ求められるのである。

単年度に限って過度の努力を傾注しても継続可能でないのでは無意味である。

教員個人に一定の努力を要請し、同時に過度の負担にならない、それが継続的FD活動実施のうえでの課題であると判断した次第である。

今年度、人文学部月例FD研修会は、6月、7月、10月、11月、12月の4回を開催した。また9月には夏季FD研修会も実施した。詳細は巻末資料4、今年度FD活動の記録を参照いただきたいが、カリキュラム単位での月例研修会の開催は2回（6・12月）である。6月には昨年度の学生による授業評価アンケートの結果をもとにカリキュラム単位での授業改善のための意見交換を行い同時にFD活動一般についての意見交換も行った。こうした活動の有効性については多様な授業形態のある学部構成員の間では意識に差は見られるが、部分的にでも有用性が実感でき授業改善に資するものであることは確実である。過度の負担を強いるものでもなく継続的に実施するに値する作業であった。

7月には今年度はじめての試みとして特定の教育活動形式についてのカリキュラムもしくは学科単位での実績報告と意見交換の機会を設けた。社会科学科においてはカリキュラ

ム単位で卒業論文指導のあり方について、文化学科においては学科単位で新入生用オリエンテーションセミナーについての実施報告と意見交換を行った。多くの教員がこうした形式の教育活動を一定量おこなうが、通常の講義や演習課目と異なり、そこにはある程度の共通性とある程度の独自性がミックスしたものとなる。にもかかわらず率直な意見交換の機会が少なかったことから実施した企画である。評価については月例FD研修会の項を参照いただきたいが、決して無意味ではなくまたこの種の試みは必要であろう。

9月には夏季FD研修会として和歌山大学経済学部吉田雅章先生による地方国立大学文系学部におけるFD活動の実践例に基づく講演をお願いした。近隣かつ類似した教育体系を有する和歌山大学経済学部において多年にわたり先端的なFD活動を推進してこられた吉田先生のお話には多くの有益な教訓がこめられており、継続的FD活動に必要な環境整備の重要性も実感させられるものであった。

10月FD研修会は奈良県立医科大学 健康政策医学教室御輿久美子先生（NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク代表理事）を講師にお招きしてハラスメントに関する意識啓発のための講演会という形式で実施した。この問題もまた近年クローズアップされたものであるが大学という組織において多年にわたり潜伏してきた問題であり、今一度教員一同の啓発をはかることは教育改善の見地からも重要な意義を有するものであった。

11月FD研修会は、昨年度FD活動の中で複数回にわたりその概要について講演を開催したPBL形式授業の実践報告と質疑応答を学部単位で開催した。昨年度7月には高等教育創造研究センター副センター長・大学院医学系研究科教授の津田司先生と副学長（教育担当）の山田康彦先生を講師としてお招きし、PBLテュートリアル講演会を実施した。また昨年度10月にもPBLテュートリアル教育の人文学部への適用例として、中川正先生から、自らの実践例を基に報告いただいた。今年度より三重大学共通教育においてPBL形式授業の実践としてPBLセミナーが開講され、人文学部教員もその一翼を担っている。そこで前期に担当した文化学科、社会科学科各2名、計4名の教員が自らの体験を報告し質疑応答をおこなった。初めての試みであり教員それぞれの実践例も多様であり、具体的な開講形式について知ることは有意義なものであったと判断する。

12月FD研修会は、年度内最後の研修会として再度カリキュラム単位での開催とし、FD活動全般への意見聴取をおこなった。多くの希望や批判が寄せられたがそれらはFD活動に関する教員アンケートとして整理分析し本報告書に集計掲載してあるので参照いただきたい。

以上のようなFD活動を通していえることであるが、なお全構成員からその意義を認められていない部分もあったように思う。また継続性を意識したあまり親身にかけたという点も否めない。研修会等の開催頻度についても、教授会前の時間帯を利用するという現在の形式のものであれば、今以上の開催は困難ではあるが、形態を工夫することによって別

に教育の質を向上させることにつながるFD活動の機会は考案の余地はあったであろう。

また今年度のFD活動について特に反省すべきと考える点は、教員相互の授業参観制度が、全く利用されなかったことである。本制度自体は昨年度もおこなわれており数例の実施例が存在した。今年度は、従来、新任教員が既存の学部構成員の授業の参観を希望した場合に実施するという形式を改め、新任であると否とにかかわらず自由に参観の希望を聴取し、機会を設けるという制度に改めた。もちろんこれは授業参観の実施回数を増やすための「改善」の意図を持った改革であった。しかしながら参観希望はゼロに終わり、従来の制度とその運用について大きな課題をつきつけたことになる。授業参観制度そのものについては、下記FD講演会講師である和歌山大学吉田先生からも、多年の経験上、非常に効果的であるとの御教示があっただけに、今年度の実績はほめられたものではない。そのため、制度活性化のために12月FD研修会においては授業参観制度のあり方をどうアンケートを別個実施した。詳細は本報告書の授業参観についての項目を参照していただきたいが、口頭での聞き取り調査では、FD委員会が積極的に授業参観制度利用のための働きかけをすることが必要であるとの指摘もあった。来年度にはその種の努力を深めることが課題である。

学生による授業評価アンケートは従来人文学部独自に行ってきたが、本年度より全学一斉に実施されることとなった。質問項目などは可能な限り継続性の保てるものにしてある。詳細は本報告中の分析をごらんいただきたい。また本年度からは大学院アンケートも初めて実施されている。大学院教育については学部教育と大きく性質が異なるものでありアンケート結果の詳細な分析を含めて来年度以降の本格的課題と考えるべきであろう。

以上、反省すべき点も多いFD活動であったが、教員間に一応定着しつつあることはある程度実感できたと思う。ただし来年度は定着からくる慣れや飽きといったものがないようにFD委員会としての一層の創意工夫が期待される。これを持続可能性に注意しながら適切なバランスをとることは容易ではないが、必要なことであることは間違いない。

2007年3月 人文学部FD委員長 益田実

巻末資料 6 2006 年度 F D 委員会年間活動

はじめに

2006 年度の F D 委員会の活動は 4 月 7 日山中前委員長より「次年度 F D 委員会への申し送り」を受け、① F D 研修会、② 夏講演会、③ 授業参観、④ 学生アンケート調査、⑤ 教員へのアンケートの 5 項目を中心に実施するものとして活動を開始した。年度当初に確認した委員構成や活動計画は以下の通りである。

I 委員会構成

委員長 益田実○

学部長補佐 高橋秀治○

委員 文化学科 野田明 山中章 今泉智之○ 福田和展○ 大河内朋子○

社会科学科 田中誠人 深井英喜 鹿嶋洋○

(○は新規委員)

II 中期計画による 2006 年度 F D 委員会年度計画

2006 年度学部年度計画案において、本年度の F D 委員会については、以下の活動の基本計画が示されている。この基本方針に従って具体的活動計画を策定することになる。

A : 項目 3 - 2

人文学部学生を対象とした授業評価アンケートで、シラバスとの一致、授業内容の難易度、量、教科書・教材の効果、説明のわかりやすさ、授業の仕方、進め方、レポート等の内容や量、独習のための教材・資料、教員の準備、熱意、質問やレポートに対する態度、成績評価の方法、授業内容の理解、興味・関心の高まり、満足度などの、全体の評価が向上することを目指し、F D 活動を行う。

B : 項目 8 - 2

F D 活動は次の通り行う。

- (1) 前期定例研修会 ① 6 月定例研修会 ② 7 月定例研修会
- (2) 夏季研修会 (9 月)・外部講師の招聘による講演会
- (3) 後期定例研修会 (10~12 月)
- (4) 授業参観
- (5) 『活動報告書』の刊行
- (6) F D 委員会活動の人文学部ホームページへの掲載

C：項目 14 - 1

可能なところから講義科目へのプレゼンテーション・ディスカッション型授業形態の導入をさらに推し進め、授業に参加することを通して「考える力」の育成を図り、その効果を検証する。

D：項目 23 - 1

学生のコミュニケーション力の涵養のため、プレゼンテーション・ディスカッション型授業やe-ラーニングを用いた授業など、学生参加型の授業方法の拡充を引き続き検討する。

E：項目 25 - 1

オリエンテーションセミナーや専門演習を通じて、少人数課題探求型授業等、考える力の涵養に効果的な指導方法についてFD研修などの場で議論を行い、可能なところから実行する。(教務委員会・FD委員会)

F：項目 26 - 1

サブ演習科目なども含め、実践的授業や自学自習問題解決型授業など、生きる力の涵養に効果的な指導方法を議論し、可能なところから実行する。(教務委員会・FD委員会)

G：項目 36 - 1

講義・演習に関する基本データ・資料を蓄積するための仕組みに基づき、教育内容やその教授方法の改善のための議論を支援するための資料を提供する。(FD委員会)

Ⅲ 活動計画

年6回の次のようなFD研修会を実施する。(上記IのB)

(1) 前期定例研修会(6・7月)

・6月定例研修会

開催予定日 2006年6月14日(水) 14:00~15:00 定例教授会前

会場 カリキュラム責任単位毎に指定(後日詳細掲示)

内容

カリキュラム責任単位別開催

昨年度実施学生アンケートの自己分析と改善方法の議論。各評価項目の評点向上のための具体案の検討(IのA)

後期10月ないし11月開催のFD研修会での内容について希望調査をおこなう。

・7月定例研修会

開催予定日 2006年7月12日(水) 14:00~15:00 定例教授会前

(IのEとFに対応する内容)

(2) 夏季研修会

9月 外部講師の招聘による講演会

(3) 後期定例研修会（10～12月）

- ・ 共通教育 PBL セミナーを前期に担当した人文学部教員（社会 2 名、文化 3 名）による報告とそれに基づく議論（I の C と D に対応）
- ・ 6 月 F D 研修会で聴取した希望を反映した内容の F D 研修会
- ・ 12 月は、カリキュラム単位での半年間の活動の回顧と総括

(4) 授業参観

本年度は以下のような主旨で授業参観を実施する。

① 趣旨・目的

人文学部教員の講義能力向上を目的として行う。（昨年度の担当者からの報告を受け、「赴任から 3 年以内の教員を対象とする」という制限をなくす）
学生アンケートとは関連づけを行わない（学生アンケートで学生からの評価が高かった講義を参観する、という趣旨ではない）。

② 手続

5 月教授会で、F D 委員長から、授業参観についてアナウンスする。

その後、担当委員が全教員あてに電子メールで連絡

6 月末までに、希望する教員が担当委員へ申し込む。

F D 委員が希望を受けた教員に許諾を諮り、日程の調整を行う。

実施後、参加者（講義を受けたもの）・講義をした教員に対してアンケートを行う。

これらの結果は F D 委員会の報告書に掲載する。

(5) 『活動報告書』の刊行（I の G に対応）

(6) F D 委員会活動の人文学部ホームページへの掲載（I の G に対応）

月例研修会報告、年次『活動報告書』要旨の人文学部 HP への掲載

IV 活動細目

(1) 新旧FD委員会引継ぎ会議 3月30日

① 委員長の選任

② 事務引継ぎ：

2005年度山中委員長より各業務内容について説明があった。(個別の業務については昨年度担当者からの補足説明も含む)

新FD委員会の作業分担として以下を決定した

月例研修会担当：今泉、田中

アンケート担当：野田、鹿嶋、福田(アンケートの実施形態などによっては大河内も参加)

夏季研修会担当：山中、益田

授業参観担当：大河内

報告書担当：深井、山中、益田

委員長益田

と決定された。

(2) 第1回FD委員会 4月19日

① 引き継ぎ事項の再確認

② 分担の再確認

③ 18年度人文学部年度計画に基づくFD委員会活動計画案作成

④ 昨年度FD活動報告書の人文HP掲載

(3) 第2回FD委員会 5月17日

① 予算案作成

② 6月FD研修会詳細決定

③ 7月FD研修会打ち合わせ

④ 9月FD講演会講師選定

(4) 6月FD研修会 6月14日(水) 14:00~15:00

① カリキュラム責任単位毎に昨年度の学生アンケートの結果につき自己分析を行った上で、課題等を話し合う。

② 9月講演会、10月以降のFD研修会の開催形態等について意見聴取

(5)第3回FD委員会 6月21日

- ①アンケートの段取り（学部FD委員会として必要な作業の段取りと分担の決定）
- ②7月定例FD研修会の実施体制について最終決定
- ③6月FD研修会報告の整理と人文HPへの掲載
- ④9月FD講演会の日程の9月FD講演会に対する要望：特になし
- ⑤授業参観申し込み状況

(6)7月FD研修会 7月12日（水）14:00～15:00

文化学科

講師：廣岡先生（今年度オリエンテーションセミナー代表）

テーマ：オリエンテーションセミナーについて

社会科学科

講師：（法政コース）寺川先生、（現代経済コース）鹿嶋先生

テーマ：卒業論文指導について

(7)第4回FD委員会 7月19日

- ①「平成17年度三重大学卒業生、修了生、および事業所への大学教育についてのアンケート調査」結果のFD活動への利用について：
- ②6月FD研修会報告の取り扱いについて：
- ③10月FD研修会について：
- ④授業アンケート実施状況について：
- ⑤その他

(8)夏季講演会 9月13日（水）13:00～15:00

講師：和歌山大学経済学部助教授 吉田雅章先生

演題：「地方国立大学文系学部におけるFD活動－実践例とその反省」

(9)第5回FD委員会 9月20日

- ①FD講演会のテープ起こし作業について
- ②前期アンケートの結果配布作業について
- ③後期アンケートの実施体制について
- ④10月、11月、12月のFD研修会について
- ⑤教員の授業参観実施について

(10)10月FD研修会 10月11日 13:00～15:00

講師：奈良県立医科大学 健康政策医学教室（NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク代表理事）御輿久美子先生

演題：「ハラスメント防止講演会」

(11)第6回FD委員会 10月18日

- ①授業アンケートデータ分析に向けて
- ②9月研修会の記録について
- ③10月FD研修会について
- ④12月FD研修会について

(12)11月FD研修会 11月8日（水）14:00～15:00

「PBLセミナー」担当教員報告会

文化学科：宇都宮先生、朴先生

社会科学科：玉川先生、益田

(13)第7回FD委員会 11月15日

- ①月例FD研修会と講演会の人文学部HP上への掲載について
- ②FD講演会テープ起こしからの原稿化について
- ③授業評価アンケートについて
- ④12月FD研修会について
- ⑤授業参観について
- ⑥年度末の報告書について

(14)12月FD研修会 12月13日（水）14:00～15:00

- ①2006年度人文学部FD活動の総括および今後のFD活動について
- ②カリキュラム単位にわかれ、今年度FD活動の評価と反省、および今後のFD活動について意見交換と議論をおこなった。

(15)第8回FD委員会 12月20日

- ①FD講演会テープ起こし再録原稿について
- ②12月月例FD研修会について
- ③年次報告書について
- ④後期学生による授業アンケートの実施段取りについて
- ⑤大学院生による授業アンケートの実施について

(16)第9回FD委員会 1月17日

- ①後期授業評価アンケート実施体制の確認
- ②自己点検評価原稿について
- ③年次報告書関係
- ④その他：

(17)第10回FD委員会 2月21日

- ①年次報告書の作成について
- ②後期の授業アンケート結果の配布について
- ③年次報告書の送付について

(18)第11回FD委員会 3月27日

- ①年次報告書について
- ②引継ぎについて